

Newsweek(国際版)日本のものづくり特集記事抜粋の日本語訳

“モノづくり”と“おもてなし”日本が誇る製造品質の裏側にあるもの

日本のメーカーは、世界的に見ても最高品質の製品を提供することで知られています。その品質は、日本企業が持つ“モノづくり”の意識に尽きると思います。“モノづくり”は、「ものを作る事」や「製造」と訳すことが出来ますが、その響きの地味さ以上に大きな意味を持っています。それは、トヨタ自動車などの大手企業から中小規模の製造業者でも多く採用されている、製造における“哲学”です。職人技、完璧を追求し、イノベーションを起こし、そしてお客様の要求を満たしたいという強い願いによるものです。そして、この最後の顧客満足こそ、お客様への気遣いに現れる日本のホスピタリティである“おもてなし”に通ずるものなのです。

“日本製”の製品やサービス全ては、個人や企業を問わず、その製品またはサービスを利用しようとする人の欲求を究極まで満たそうとする職人技とおもてなしの心に裏付けされたものであり、おもてなしと職人技を1つのパッケージとして纏めて提供すること、それが日本のものづくりの原点です。”とオリジナルの釣具製品と釣竿コンポーネントの製造メーカーであり、その“モノづくり”を“釣り人の夢をカタチにする”ことに重きを置いている富士工業の代表取締役社長である大村一仁は説明しています。

“モノづくり”といっても、単に優れたものを作ればよいというものではありません。その前に、なぜ、何のためにモノを作りたいのか、その動機を考えなければなりません。その思いが、自分自身のものづくりの原点になるのです。

“モノづくり”と“おもてなし”の考えを組み合わせることで日本企業は高い品質基準を維持し続け、それが「メイド・イン・ジャパン」ブランドを世界中に知らしめている背景です。

Newsweek(国際版)掲載記事の日本語訳

釣り人の夢をかたちに(アングラーの夢をかなえる)

FUJI は、釣具とロッドコンポーネントのトップメーカーとして、釣り人に愛されるユニークな製品を開発し、日々変化するスポーツフィッシング業界の要求に応じています。

FUJI のモノづくりは、大企業から中小企業に至るまで、職人技と細部へのこだわり、完璧さの追求と絶え間ない革新に焦点を当てた日本の製造哲学と同じ考えが根底にある。そして、オリジナル釣具と竿のコンポーネントメーカーである FUJI の場合、「釣り人の夢をかたち」にすることが同社のものづくりの理念となっている。

“FUJI の商品開発・製造は、オリジナル商品で釣り人に感動を与えること”と語るのは、代表取締役社長 大村一仁氏だ。“独立独歩のロッドコンポーネント製造会社、オンリーワンのユニークな企業でありたいと思います。安定した付加価値のある品質をお客様に提供し続けることで、企業の信頼性が確立され、他社との差別化が可能になると考えています。”

釣り竿の市場は、外部から見ると、常に進化しているようには見えないかもしれないが、それは決して真実ではない。実際、アングラーのニーズや要求は常に変化している。素材や部品の進化、釣法や竿の使い方の変化など、さまざまなニーズに応え、一步進んだものづくりをすることが、今後ますます重要になると考えています。

“お客様のニーズに最適なものづくり”を心がけています。私たちは竿のコンポーネントメーカーですが、コンポーネントそのものを売るのではなく、私たちの竿のコンポーネントを使うことで釣竿の性能がどう上がるかをお客様に伝えていきます」と大村は付け加える。つまり、『ハード(製品)』と『ソフト(コンセプト)』の両方をお客様に提案することが非常に重要だと考えているのです。そして、新素材や新しいフィッシングスタイルと調和しながら、お客様のさまざまなニーズに応える製品を革新し続けることが、私たちの使命です」。

FUJI は現在、主力事業に加えて、「DIY 型コンセプト」で「オンリーワン」のロッドを作りたいアングラー向けに製品群を拡充し、「カスタムメイドのロッド作り」という新しい市場の創造にも注力しています。

「B2B から B2C へ、より多くのカスタムメイドを提供するために、ここ数年、私たちのビジネスは変化しています」と社長は言います。

FUJI は、ガイド、リールシート、トップカバー、バットアクセサリ、グリップマテリアル、メタルパーツ、シンカー、フックキーパーなど、1万種類に及ぶロッドパーツのカタログを構築し、国ごとに異なるアングラのニーズに応じているのである。大村はこう断言する。「私たちの製品はすべてアングラのために開発されたものです。釣り人の声に耳を傾け、そのニーズにマッチした製品を開発し、釣りの楽しさを伝える。シンプルですが、これが FUJI のモノづくりの原点です」。

モノづくりといえば、「メイド・イン・ジャパン」のイメージが強い。FUJI の製品の多くは中国の工場で作られているが、日本の高い基準をクリアすることで、最高品質の部品を作り出しているのだ。中国工場では、「Made in Japan」の品質基準を徹底して守り、ものづくりを追求しています」と大村は言う。「品質第一」は、私たちのビジネスの原則であり、全従業員が共有する信条でもあります。どこで生産するにしても、『ジャパングオリティ』『FUJI クオリティ』を実現することが最も重要であり、中国の生産工場もそれを目指しています。FUJI 品質”を実現するために、中国のスタッフとも密接に連携しています」。

FUJI にとって、社会と環境へのコミットメントは、アングラへのコミットメントと同じくらい重要である。2008 年、国連の「持続可能な開発目標」と同じ価値観を持つ「We Love the Earth」コンセプトを導入した。「生産工程での負荷軽減はもちろん、地域と連携した自然保護活動も行っています」と大村は付け加える。モノづくり企業でありながら、環境、地域社会、釣具業界に貢献する“文化創造企業”として、存在価値を高めていきたいと考えています」。